

## 平成13年度美術館ボランティア

静岡県立美術館では、開館の前年度よりボランティアの募集・研修を行い、開館以来、美術館と観覧者との「架け橋」として大きな役割を果たし続けてきている。これまで3度の追加募集を行い、新規応募者に対しては研修を行った上で正式なボランティアとして登録している。

登録人数の減少から追加募集を行う時期が近くなってきた。今年度は、将来的にどのような美術館ボランティア像を求めるかについて、3回の班長会を通じて美術館とボランティア内部での話し合いを進め、それに基づいて来年度に新規募集を行うこととした。

### 活動人数の推移

昭和61年度	350名
昭和62年度	307名
昭和63年度	260名
平成元年度	317名 (新規参加者 90名)
平成2年度	263名
平成3年度	240名
平成4年度	223名
平成5年度	347名 (新規参加者140名)
平成6年度	331名
平成7年度	299名
平成8年度	282名
平成9年度	273名
平成10年度	354名 (新規参加者 94名)
平成11年度	316名
平成12年度	297名
平成13年度	265名

### 基本の活動と内容・役割

全体を24班に分け、4週に1回を基本活動日として活動している。

内容は、来館者と直接接する仕事と、縁の下の方として来館者からは見えないところで、美術館の業務を様々な面から助ける仕事の、大きく分けて2通りがある。

来館者と直接接する仕事としては、インフォメーションデスクでの来館者へのご案内、図書閲覧室の受付、音声ガイドの受付、視覚障害者のためにロダン館で行っている「彫刻を触って鑑賞できるプログラム」のガイドなどがある。これらの仕事は、それぞれが開設されている場所での活動となり、その日の活動者が時間を区切ってローテーションしながら行っている。

来館者から見えない部分での仕事としては、新聞等

の美術記事の切り抜き、美術館からの様々な発送物の発送準備作業、全国の美術館から寄せられる展覧会ポスターの掲示などがあり、これらはボランティア室において行っている。

この他に、収蔵品展や企画展の鑑賞研修も大切な活動である。収蔵品展はいつでも鑑賞することができ、美術館の所蔵作品について造詣を深めることに各人が努めている。企画展についても積極的に鑑賞研修を進めるため、活動日以外にも1企画展について1回の鑑賞を認めている。

更に、各展覧会には、ボランティアのみを対象とした「ボランティア・レビュー」が開催される。ここでは、学芸員による解説と展覧会の鑑賞が行われ、いち早く展覧会の内容を把握しその魅力を広く館外へ広めるといふ、ボランティアの役割遂行に役立っている。

ボランティアは、展覧会に限らず、美術館の行う諸活動について地域に密着したPRの役割も果たしており、近年社会で高まっているボランティアへの興味に確実に答える活動として、その実を上げている。

活動時間 火曜日～日曜日 9:15～16:30

- \* インフォメーションデスク・音声ガイド受付
- \* 図書閲覧室・公開端末利用の受付
- \* 新聞等の美術記事切り抜き作業
- \* ポスター掲示・館内美化
- \* 美術館広報・ポスター配布・各種発送の準備
- \* 視覚障害者の触察ガイド (今年度は4件実施)
- \* ビデオプラザの開催 (日曜日)

### 有志によるグループ活動

班編制による基本活動とは別に、有志によるグループ活動として、「ギャラリー・トーク」として展示室内での作品解説を行う「グループD」として新聞切り抜きや作家資料の分類・整理を行う「桐の会」として図書データ等のパソコン入力を行うの3つのグループが活動している。

また、今年度開催した「ザ・ベスト展2001 あなたのリクエスト結果が展覧会になった！」の準備のために新たに有志を募ってご協力頂いた。収蔵作品に対して広く一般市民からリクエストを受け付ける「リクエスト協力隊」として23名、そのリクエスト結果の集計を行う「リクエスト集計協力隊」として11名がそれぞれ活動した。

\* ギャラリー・トーク

収蔵作品の展示室での解説（毎月第2・4土曜日）  
企画展の展示室での解説（随時）  
ロダンと日本展、ザ・ベスト展2001、描かれた東  
海道展、静岡ゆかりの画家たち展

\* グループDによる資料整理

\* 桐の会によるパソコン入力

\* 研修旅行委員による旅行内容の企画等

\* 触察研修スタッフによる触察補助活動

\* リクエスト協力隊、リクエスト集計協力隊による展  
覧会活動支援

年間活動記録

4月1日 総勢265名で活動開始

5月21日 第1回班長会

8月7日 第2回班長会

11月18日 ボランティア研修旅行（徳川美術館・豊田  
市美術館）48名参加、随員：森 充代（学  
芸員）森 信広（管理係主任）

11月21日 ボランティア研修旅行（徳川美術館・豊田  
市美術館）70名参加、随員：飯田 真（主  
任学芸員）興津幸男（総務係長）

3月31日 第3回班長会

「広報サポーター」の新設

これまでの活動に加え、新たな美術館ボランティア  
の一環として「広報サポーター」を発足させた。

現在の美術館ボランティアは、美術館に通って来て  
館内で活動することを条件としているが、遠隔地であ  
ることや時間的制約のためボランティア活動を望んで  
いても果たせない人々が多くいることが、活動辞退者  
や活動を一時休止している方々のお話からわかってき  
た。そこで、通常のボランティア活動の一部である  
「美術館と展覧会の広報」だけをとりだし、この広報  
活動のみを担う、来館しないボランティア活動を「広  
報サポーター」として発足させた。

具体的な役割は、随時送られてくる展覧会やイベン  
トのポスター・チラシを地域や職場などに掲出したり、  
ポスター掲出を希望する方の情報を美術館に寄せるこ  
とで、美術館の活動を広めることである。個々人の活  
動の内容は、1年に1度、アンケートの形でご報告いた  
だくこととした。

広報サポーターに登録すると、展覧会やイベントの  
情報を随時得ることができ、展覧会のボランティア・  
プレビューにも参加できる。美術館の情報には敏感だ

がなかなか来館の機会を得ることができない方や、美  
術館と何らかの関わりを持ちたいと思っても様々な制  
約から定期的な来館は無理、という方にご好評をいた  
だき、11月下旬からの受付で45名の方を登録した。

従来のボランティアとは職種や興味の異なる方々の  
登録も多く、広報サポーターから美術館に届けられる  
声にはこれまで以上に広がりがあるように感じられる。  
また、この方式は、時間や場所に縛られないボランティ  
アとして広く社会に受け入れられる可能性を持ち、美  
術館と社会との直接的なつながりを更に広げる窓口と  
して非常に有益であることがわかった。この登録は、  
配布物等のバランスを考えながら、今後も継続する予  
定である。

1) 「広報サポーター」に登録すると

\* 展覧会ポスターやチラシ、イベント情報が随時送ら  
れてくる

\* 展覧会のプレビューに参加できる

\* 広報サポーター証の発行を受ける

2) 「広報サポーター」の義務

\* 展覧会やイベントの情報を地域や職場に広める

\* 効果的なポスター掲示場所等の情報を美術館に寄せ  
る

\* 年に1度、活動内容をアンケートの形で報告する

3) 申し込み方法

\* 申し込み用紙に記入し、郵送かファックスする

\* ホームページから申し込み内容をメールする